



### オプションプログラム① しおひがりにでかけよう!!

広大な自然の干潟の中で潮干狩り。宝探しより難しいかもしれない自然の潮干狩りに挑戦です。目の前の干潟のどこに貝たちが眠っているのか…。上からみただけではわかりません。道具を借りてどこか掘りたい。すぐに岸の近くで掘り始めますが…。何も出てきません。これはいかん子ども達。うちの人の「夕ご飯にするからねえ」という言葉が頭をよぎります。もつとあちこち試してみたらどうなる??と先発隊がさらに沖へ。「なあなあこれ何〜!」「うわあ〜ハマグリやん!」とスタッフ。その声をききつけて、他の子ども達も合流です。最初は熊手でおこなひっくり返った子ども達も、そのうち熊手は貝の感触がわからんと素手で掘り始め、ゴソつかみ、ひとつ、またひとつ貝を見つけておりました。今回は、干潮時にしかとることができない。マテ貝と貝にも挑戦。干潟の砂をスコップで斜めに落とすと、細長い穴がみつかります。そこに塩を盛ると…。ニョキ、よきにょきニョキ〜と長細い貝が出てくるのです。手を挟まれては大変と、せっかく出てきたマテ貝をなかなかつかむことができません。そのうち、マテ貝のほつが、「なんや何もないやんか〜」と砂の中へ。ああ、残念。気を取り直して、もう一度穴を探し、塩を盛る。今度こそマテ貝をつかむと、これが結構な力で砂の中にもぐるので、マテ貝との綱引きスタート人間が勝つか、貝が勝つか真剣勝負。買った負け〜と言っているうちに、今年のおしひがりも、無事終了。来年はどんな貝がたくさんとれるのか、楽しみです。(とれるかい、実は毎年、メインの貝が違います。これも自然の楽しみのひとつです。) (あまソ、ハギ、アントニー、ユイ)

▲今年マテ貝がたくさんとれました!

### オプションプログラム② 春の海つりにでかけよう!!

さてさて、オプションプログラム第2弾は、春の海つりにでかけよう!広い広い大阪湾。今年はどこに魚が寄っているのか事前にアントニーが下見に下見を重ね、和歌山県にて春の海つりに挑戦してきました。狙う魚は、豆アジ、イワシ、サバ。自分の竿に、サビキという針が5つもついているしかけを自分で結び付け、エサが奥に、オキアミという小さなエビを詰め込んで、海に釣り糸を垂らします。一人目が糸を垂らした瞬間、ビビーンと釣り糸をつたって、魚のあたりが急いでリールを巻きあげると、サバが釣れています。もう、こうなったら、釣るしかないそこから子ども達は、大忙し。昼食をとるタイミングもなかなかとれないくらい、釣り続けました…。が、やはり人間もおなかを満たそうということで、手を洗いに、港のトイレへ…。実は公衆トイレの前が、ビーチになっており、きれいな砂浜の海が広がっています。足だけ、ちよつとだけ…。えーい、着替えもあるし、ライフジャケットもつけているから入ってしまえ〜とほぼ全員でひと足早い海水浴。これが楽しくて仕方ない。さきまでおなかがいっていたはずなのに、みんななかなか上がりません。楽しいと感じることに一直線。子ども時代だからこそできる、まっすぐに感じるめまいのするような楽しさです。やっと海からあがり、着替え。そして昼ご飯。最後にまたまた釣りをして、今年春の海つりは終了です。みなさん、大変お疲れ様でした。また、来年、春の魚をねらいに行きましょう!(あまソ、ハギ、アントニー、ツジ、ユイ、モエ)



▲春の海つりのはずが…。おははは〜!

**スタッフからのてがみ** さてさて、もうすぐ夏休みがやってきます。私の小学生時代の夏休みの思い出といえば、ある日の朝早く、母から、プールで遊んできなさいと、もらった電車代。何を思ったか、友達と、歩いて30km先のプールまで行く計画?(いきあたりぼったりですが、当時は真剣)を立て、すぐさま実行!朝8時に家を出て、ひたすら、うる覚えの道と、手に持ったお菓子を頼りに、歩く、歩く。途中、あまりの遠さに引き返そうにも、行くも、帰るも、もう遅い。電車代は、ジュースとなって、お腹の中に消えています。歩道の縁石に友達と座り込み「足痛い!」「しんどい!」とまうぜん。しかし、2人で気持ちを奮い立たせ「行くぞー!」と前へ進み、午後4時半にプールに到着。マッパで着替え、10分だけプールに入ることができました(5時間閉門でした)。この経験から出来ているプログラムが、「オーバーナイト/イク(枚方から海まで 26.5km/イク)」と「京阪どこまで歩けるかウォーク」。子どもたちには「課題を」と考えるよりも、自由なあそび心をみなぎらせた「どこまでもある」というほろろ心をもってほしい。僕たちも、お金を浮かせたわけではなく、夏休みこまごまかしたかったんですね。そんなことができていた時代、今よりも、ゆるやかだったんですね。(ハギ:45才)

ジュニアコース②



あどベンデキタ?!

季節の変わり目です。体調などくずさぬよう、みなさま、どうぞご自愛ください。

キッズコース②



子どものための自然体験学校  
「アドベンチャーキッズスクール」活動レポート

**adven Dekita?!** -アドベンデキタ?!- 2017.6 発行日:2017年6月30日  
発行:「アドベンチャーキッズスクール」実行委員会 大阪事務局  
枚方市茄子作1丁目41番23号 野外体験習熟所パワース・アウトドアエテュケーション内  
TEL 072-854-2681 FAX 050-3737-1157(FAX専用回線)  
E-MAIL info-powers@office.nifty.jp URL http://www.powers-outdoor.com



## Adventure Kids School

子どものための自然体験学校「アドベンチャーキッズスクール」活動報告レポート

Report "adven Dekita?!" -アドベンデキタ?!-

# adven Dekita



リトルコース② 「かいてん!リトル・パンやさん!!」

June.2017

### リトルコース① いちごがりにでかけよう

1回目の活動は、いちごがり。今年は天候が不順で、いちごがなかなかならずで大変だといちご園の方から聞いておりましたので、心配しておりましたが、畑にはたくさんがいちごがバクバク。モグモグ。39個食べた。69個食べたみんなのおなかのなかはいちごでいっぱいのはず。驚くスタッフにはじめて会ったメンバー同士、にやにやしてやったり顔。たくさんがいちごを食べたあと、さらにお弁当もいただいて、畑の探検に出発。何もない、本当に何もない田んぼの横の水路ですが、何もないからこそ、こどもたちの想像力がどんどん働いて決壊のジャングル探検に。スタッフは、後ろからついていきます。途中、農道の橋の下をくぐりながらついていきます。途中、農道の橋の下をくぐりますが、自然と一年生が、おれが先頭で。年長ついでこーい。今日あったばかりなのに、みんな楽しそう。途中カエルをみつけたり、たくさんの蜘蛛の巣と戦ったり。行き止まりで、どうするかみんなで相談したり。ああ、なんだか、一年が楽しみになってきた今年のリトルコースでした。(あまノ、ハギ、アトニー、フク)



▲上:いちごがりにでかけよう  
下:かいてん!リトルパンやさん

### キッズコース① 手作り料理コンテスト!

キッズコース2回目は、手作り料理コンテスト。コンテストといっても、採点をするわけではありませんが、はじめて会うメンバー同士、一日楽しく、アウトドアクッキングに挑戦しました。会場となった、自然の森オートキャンプ場。管理人さんのご厚意で、目の前に川が流れる素敵な場所。川があるのに入らないわけはないかと、まずは川へじゃぶじゃぶ。道具と材料をもらったら、3時の出発の時間まで、どう進めるかは、子ども達が決めていきます。川のなかから石をひろい、せせと運んで、石のかまどを作ります。時間はたいそうかかりますが、子ども達は、二のこぐ機能。出来上がったかまどは立派なもので、そこで火をおこし料理作り。途中、川へ遊びにいってしまっても、自分達で、気づいて戻ってきて、残りの作業を進めます。大人がとやかく言わずとも、子ども達は、よくわかっていて、そして、出来る力を持ってます。どの班も、料理も美味しく頂き、後片付けもあっという間にすませてしまい、最後は、お楽しみ川あそびを満喫、はじめて会うメンバーとも打ち解けた回りの活動でした。(あまノ)



▲手作り料理コンテスト



▲キッズ登山隊出発

### ミドルコース① しおひがりに挑戦!

ミドル2回目は、みんなで、三重県の大なる自然の干潟での潮干狩りに挑戦してきました。大きな大きな干潟。小さな貝を見つけ出すのは中々大変! 子ども達は、砂まみれになり、濡れながら、何とか自分で食べられる貝を獲ってやろうと自然相手に大奮闘。今年は、例年よりも貝の少ない年でしたが、何とか、自分でハマグリやおふき貝等の貝を砂の中から見つけ出し、獲ることができました。また、縦長の棒のような貝「マテガイ」。砂の中にある穴を見つけて、そこに塩をいれと出てくる、何とも得体的な貝にの貝。子ども達最初は怖くておっかなびっくり。しかし、何とかついでと挑戦したメンバーは獲れて「ヤッター!」。遠浅の海の中、どこまで沖に行けるかなど、季節外れの海水浴もして、1日、自然の恵みに抱かれ、伸び上がった子ども達でした。今年のメンバーたちの中で、できるだけ早く安心できる環境ができ、全員が大きく伸び上がって、そして、自分を上げていけるコースになればと思っています。(ハギ)



▲しおひがりに挑戦!!「マテガイと」

### ジュニアコース① イブキヤマ・トレッキング

ジュニア1回目は、みんなで滋賀県いち高い山、伊吹山(1377m)の登山に挑戦してきました。ジュニアコースが、ミドル以下と少し違うのは「自分達のメンバーの安全は、お互いに、自分達で守る」ということ。これまでより更に自然の奥地で大きなことに挑戦しようとするコースなのでそれが無いときではないと、と朝にハギから説明されて、スタートしたジュニア。そして伊吹山登山。もちろん、ペースも休憩も子ども達に委ねられます。そして、どうなったかという。3つのうち2つの班が10台目までであるうちの3台目が、14:00。「ん?」?というのでかという、15:15 には10台目頂上に着いておくことが全員の約束なので、全くもって時間が間に合わない!!。ひとつの班は早いペースで皆で頑張り、予定時間に余裕をもって下山を完了。その裏では、まだコソコソ登る 2 つの班が!!。「3台目からと来た道を引き返して下山してバスに迎えに来てもらうほうがいいのか...」というハギの葛藤をよそに、子ども達は、遅れるメンバーを責めるようなことなく、互いに互いを守り合い、遅れるメンバーを待ち、コソコソ進んでいきます。カウンセラー陣もかなり粘り強い!!。この状況でも口を一切挟まず見守ります。ここで時間のことや、急がすことをカウンセラーが言ってしまえば、子どもの挑戦、経験が、子どもに跳ね返っていきません。本当に全部委ねられ、結果も委ねられるからこそ、全部自分に跳ね返ってくるし、子ども達で何とかかんとか最後までやった経験こそ、数少ないこと(機会)ですが、貴重な経験。ハギも腹をくくり、保護者の皆様はこの旨、先に連絡をし、安全上問題のないラインまで待つこととしました。子ども達ももちろん山時間のことは気づいています。5合目からの富士のような山肌ジグザグ道も、とにかく進み、遅れるメンバーは本当にフルパワーで頑張り、早いメンバーも何とか早く進める方法はないかと考え引張り、18:00に全員無事頂上へ着きました。今回は、下山は岐阜県側9合目まで(そこでバス待機)。最後の最後まで、掛け値なしの自分の自分達のチャレンジに、さっぱり感の大きなジュニアのみならずでした。保護者の皆様、ご協力本当に有難うございました。おかげ様で全員が、やり切ることができました。子どもたち、本当によくがんばった!!(ハギ)



▲リバーカヤックツーリング!基礎の経験を活かして、大きなことにチャレンジ!

### リトルコース② かいてん!リトル・パンやさん!

リトルコース2回目は、かいてん!リトル・パンやさん!野外活動センターに到着。本部車両から、装備を次々に運び出します。子どもたちは、おもしろく、軽いもの、重いものを持ってほしいとねだります。足の上に落とすと大変だから、気を付けてといながら、装備の重量、大きさはほとんどサイズアップ。これは無理だろうとおくはいた新のダンボールは、大勢でもって大丈夫と、ひどいおまげがしてしまいます。すごすごいパン生地づくは、やり方を最初にお示してあげると、順番をおって、自分達でやってみる。粉をはかるのも、慎重に。だけれども大胆に。生地をねるの。最初は、きもちわるい。そして、うわあ~のびるぞ~そして、うぎゃー!がおお~。スライムのように、楽しく、そして火おこし。子ども達の火おこしのイメージは、まずは、森へたきぎをひろいにてけました。最初は、近くで小枝をひろってたき火へくべいたのが、どンドン森の奥へ、そして拾う木も大きくくべっていき、「あまノん持って帰って!」といながら子ども達は探検へ。一時間探検を経て、戻って来ると、パン生地も無事発酵。数分生地にをけて、思い思いのパンを作り、ダッチオーブンで焼きました。みんな美味い!パンが完成です。後片付けも、みんなで手分けしてあっという間に終わらせて、施設裏のアスレチックで汗を流し、さあ帰ろうという。子ども達も、ええ。だて探検していたやん!まだまだ遊ぶことができる様子です。たった、ひと月に一度の活動ではありますが、子ども達が、やってみたいやってみたらどうなるんだろうこの先何がまっているんだろうと思うこと、とことんお付き合いさせてもらふことで、こどもたちの心の中にある、挑戦心、冒険心、それを達成したときの満足感、自分への自信を沢山かちとらえて一年になればと思います。まだまだ、2回目を終えたばかりですが、次の、海でどんな子ども達のぼうけんがまっているのか、今から楽しみです。(あまノ、ハギ、アトニー)

### キッズコース② キッズ登山隊出発!

キッズコース2回目は、クロナヤマ登山に挑戦です。クロナヤマは、今の時期は、新緑があふれ、それはそれは雄大な姿を私たちに見せてくれる素敵なお山です。山のぼりも、しんどいものというイメージがあるかもしれませんが、子ども達もスタート地点で見上げたクロナヤマの山容に、ほんまに登れるかなあ~と心配そう。そこからみている一番高いところは、頂上ではないと聞くと、これまたテンションが下がります。最初の急登は、心臓がぶりの木道の階段が続きます。一気に高度をあげることが出来るのですが、この先のことを考えると、心配にもなる登りです。樹林帯をぬけて、見晴らしの良いところまでと、一気に高度があがり、見える景色が変わることに驚く子ども達。そうすると、もう先がどうなるのかわからないメンバーと、頑張っているけれど、なかなかペースがあがらないメンバーの間の距離がどンドン広がってしまいます。先にいくメンバーは、後ろのメンバーを待たずに、休憩ができますが、あとから来たメンバーが、到着するや否やスタート。そうすると、後から来たメンバーはひとつも休むことができません。当たり前ですが、一生懸命な時には、なかなかそういことには気づきません。状況を子ども達に伝え、ええと、「ああそうか」と納得。子ども達は、面白いもので、そのあとは、後から来たメンバーに確認しています。「休む?行ける?」おれ大丈夫、行けるで!よし行くぞとみんなスタート。すると、どうでしょう。先ほどまで軽くしゃべっていた班の雰囲気が一気に変わります。どの班も同じようなプロセスを経て、最後は頂上目指してどんでん返り。一つの間、本山の頂上の前も、これは偽物の頂上やと通り過ぎてしまうほどでした。人と何かを一一緒やることは、大人でも難しいこと。子ども達は、自分達の経験から、今、色々なことを学び、気づいていく段階です。大人は、その少しのけっけきを作っておけるだけでもいいかもしれません。(あまノ、ハギ、アトニー、ナツ、ソジ、ユイ)

### ミドルコース② ソロ・クッキング!

ミドル2回目は、「ソロ・クッキング!」。「ひとり」というよりも、普段、班での火おこしクッキングが多い中、それを、全部自分のやってもらえる、サバイバル・クッキングというイメージです。空き缶でごはんを焚き、スベアリブをはじめ、色んな食材をホイールに包んで、味付けし、たき火に放しむ!料理自体は簡単、簡単!勝負はやはりたき火です。子ども達は、下ごしらえまで機能、自分のイメージを実現していきます。丁寧にアスレチックをやる人、きとく食材を固めて包む人、皆、それぞれ、OKです!自分のやってみたいように今日はやっています!手早くやるとい、じっくりやるとい、どっちもOK。さて、下ごしらえが終わったら、火おこしをしてたき火を作らね! スーズに火が着いて、それを保てるメンバーもいれ、最初、火がすぐで消えて消えて、何度も何度もやり直しでも苦勞するメンバー。最初の火がつかないメンバー。中には、最初火がついた後、消えて、その後2時間も自分で頑張る火もつかず、2時間後ようやくいきたき火が出来たメンバーも。出来上がりは、おいしいメンバーもあれば、焦げた、砂がかぶっておいしく食べられなかったりも。ただし、全員、最後まで自分でやり切った!それはきとく、とても大事なことです!料理教室ではないので、もちろん、出来栄も気になる大事な所ですが、今回は、そこより、自分が大変なことを、ひとりの力で、最後までやり切ろうとしたこと、そしてやり切ったこと、そこにスポットライトを当てて、自分をほめてあげることがきとく大切だと思います。また、やり切る強い力のある自分に安心してみることも、きとく大事なことです。最後のメンバーは、実は 15:00 に完成!そこまでよききらめなかつた!スタッフは何を言うまでもなく、みんな自分でやり切ろうとしていたミドルのみならず!全員、本当によくやり切った!よく頑張った!!(ハギ)



▲ソロ・クッキング!「がんばって、よかづー!」



▲伊吹山1377m頂上到着!!「終わったー!」



▲びわこカヤックツーリング。沖でドボン。

### ジュニアコース② びわこカヤックショートツーリング

ジュニア2回目の活動は、琵琶湖でカヤックに挑戦しました。前回は、大変な大変なチャレンジだったジュニア。今回は、「湖でおもしろいカヤックで遊ぶぞー!」「イェー!」といった感じです。カヤック以外でも、湖に落ちているまきびをみんなで拾ったり、打ち上げられた魚の死骸に興味を持って自然の中で跳ね回る感じの子ども達、カヤックはペアで挑戦もすつと、曲がる技術を浅瀬で練習し、いざ、沖へ出発!ところが、いくつものペアは、曲がって曲がって沖へ進んでいけな!「がんばれー!」。今日はスタッフもいざさのかんき。頑張っても沖のブイに到着したら、ドボンタイム!カヤックから沖へ飛び込む!!泳ぐ!!レスキューしてもらい、さんさん泳いだ後、今度は琵琶湖を、2km南下するツーリング。ドボンで冷えた疲れた筋肉で、パワフルは大変!うまく泳ぎに立ち寄り、ジミジミと夢中の子どもたち。まきびも、ドボンも、ジミも、全てそうですが、自然の中でみんなで遊んでいる、つい、時間を忘れてしまふ、時間を忘れて遊び続けることのできる「力」。それは、心を伸ばし上げて、活力をみなぎらせる。そして、自分の可能性を拓いていく原動力のような気がします。本当に大きなエネルギーで、自然と遊び続けた子どもたち!疲れては、おなかのすき、バスの中であんぱんにかぶりつく姿が印象的でした。みんな、波と風のある中、2kmも漕いで、よく、頑張ったね!!(ハギ)

### チャレンジ隊① リバーカヤックツーリング

チャレンジ隊2回目は、リバーカヤックに挑戦。ジュニア時代の湖の静水の経験をもとに、今度は川の流水でのカヤックに挑戦です。まず1日目は、川の静水(水が止まっている所)で、川に必要な新たな技術を練習して、そして、今日は、少し川をみんな自分で偵察し、スタート直後、流れのいい瀬があり、最初からそこがこれは怖いかと思ったり、みんなに聞いてみると、「行くやろ!絶対行く!」とハギの心配をよそに、しっかりとチャレンジモード。さすがハギがたい!!明日、そこを皮切りに川を下っていくこととしました。キャンプ生活では、チャレンジ隊は全て生活面は子ども達に委ねられます(活動もそうですが)、キャンプがはじまる。あとは子ども達だけの生活!意外にきちんとしてらるんですよ!ごはんなり、テントたて、片づけ、就寝、水を得たように、子ども流で、大人らしくに進んでいきます。感心感心、けんけんか、うまいくもみんな次第。自分達でやっている機会なので、2日目、カヤックで川下り出発!!大きな流れ、波のある瀬もチャレンジし、うまく瀬に乗れたペアは「めっちゃ良かった!」。瀬からはじかれたペアは「何だかゆっくらだっぞ...」。今年は水量が少なく、流れも緩やかだったため、ゴールまでカヤックを漕ぐのが結構大変 5km先のゴールに着くと、「川下りして、意外にしんどいわー」。片付けも子ども達でやって、チャレンジ隊1回目は終わっていたのでした。さあ、顔合わせ、それから、ウォーミングアップが終了!次回から、本格的に、子ども達のチャレンジのスタート。どんな1年かになるかは自分達次第。思い切ってチャレンジしていろ!!(ハギ)